

## 厚生労働科学研究により実施したへき地医療に関する研究事業

鈴木委員資料

## 1. 第10次へき地保健医療対策より以前の研究事業

## 2. 第10次へき地保健医療対策以降の研究事業

- 1) へき地の保健医療に関するアンケート調査(平成16年度)  
「早期退職希望」と「診療所に対する行政の支援・協力」、「医師としての意見の保健医療行政への反映」との関連が明らかになった。
- 2) へき地・離島の保健医療サービスを担う医師の研鑽等のための  
「へき地・離島医療マニュアル」(平成17年度)
- 3) 都道府県へき地・離島保健医療計画策定に向けての事例集(平成18年度)
- 4) へき地・離島の保健医療のあるべき姿(平成19年度)

## 3. 現在行っている研究事業

- 1) へき地等の診療所に関するアンケート調査  
医師の受けた臨床研修と診療所に対応している診療内容の関係や、現場の医師が何を望んでいるかなどを明らかにすることを目的としている。  
1803市町村に配布し、978市町村から回答を得た。  
回答した978市町村には「へき地にある診療所」が1016か所存在していた。  
1016診療所のうち502か所に調査用紙が配布され、そのうち466から回答を得た。
- 2) 医師の総合診療およびへき地勤務に対する指向に関するアンケート調査  
卒前教育、初期臨床研修、後期研修、実際のへき地勤務の経験などによって総合診療やへき地勤務に対する考え方に違いがあるかどうか、現在へき地にいない医師にへき地に赴任してもらうための条件などが明らかにできると考えている。  
調査施設と対象医師数
 

札幌医科大学附属病院	約600名
島根県立中央病院	約200名
国立長崎医療センター	約200名
鹿児島大学附属病院	約600名
自治医科大学附属病院	約500名

以下の調査は計画中。

- 3) 都道府県やへき地医療支援機構に対する調査
- 4) へき地医療拠点病院を対象とした調査